

125周年について思うこと

「125周年の歩み」

宮田 満雄
神戸YMCA名誉理事

神戸YMCAが創立百周年を盛大に祝ったのは1986年であった。理事長は湧井安太郎氏、総理事はこの二年前に今井鎮雄総理事のあとを継いだ古谷武雄氏の時であった。あれから四半世紀が過ぎようとしている。この間の歩みを振り返ると大きく二つの時期に分けて見ることができるよう思う。それは1995年の阪神淡路大震災の前と後の時期である。

前半の約十年間には社会福祉法人神戸YMCA福祉会の創立、YMCA保育園開設、学園都市YMCA会館献堂。また、宝塚と三田にセンター開設等々事業面での拡大が計られていたことがわかる。またこの間海外のYMCAとの交流、人物の往来も盛んであり、ワイズメンクラブにおいて神戸ワイズメン、宝塚ワイズメン、三田ワイズメン、神戸学園都市ワイズメン等が次々とチャーターされた。YMCAの財政も現在の規模より大きく支えられていた。そしてこの間に理事長と総理事の交代があり、理事長は1988年、総理事は1992年にそれぞれ私と山口徹氏が就任した。

1995年1月の大震災は青天の霹靂であった。それはまさに聖書にあるように地の基(もと)が震え動き、地は甚しく裂け、砕け、そして揺れるということが現実になり多くの命が失われ家族が離散するという結果に私たちはただただ驚愕し唖然とするのみであった。この時に当り山口総理事のリーダーシップにより、国の内外の仲間や団体の協力を得て困難な中にも迅速な震災救援活動が展開され良い働きに導かれたことは感謝すべきことであった。

その後、世界的に政治、経済、社会の環境は不安定化しその影響を受けて国内YMCAにおいても組織のスリム化を真剣に検討しなければならぬ状況となり、いくつものYMCAにおいては会館の売却移転、施設の閉鎖など深刻な決断のやむなきに至った。神戸YMCAにおいても例外ではなく、幼稚園、保育所などの事業では新しい計画を実現したものの全体としては組織、事業共に縮小の方向を取らざるを得ない状況となり、その方向での決断、運営がなされてきた。2002年に理事長と総理事の同時世代交代があり画期的な本邦初の女性理事長の誕生を見、武田寿子女史が就任され、総理事には水野雄二氏が就任、そのもとに新しい時代に沿った組織作りと事業のあり方が模索され今日まで健闘してきたことは感謝である。

このような時代の流れの中で私たちは創立125周年を祝うこととなるのである。さまざまな感慨が交錯する。創立以来神戸YMCAは激しく移り変わる歴史の荒波に翻弄されながらそれぞれ時代の難を克服しその使命を果たすべく努力してきた。この間に示された多くの人々の献身と犠牲、主の導きと恵みを思う時、我々はただただ畏れと深い感謝の念をもって主の前にひれ伏すばかりではない。聖書には「山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移ることはない」と励ましの言葉が説かれている。私たちの希望と確信の拠り所である。苦難、忍耐、練達、そして希望。私たちの次の歩みが確かなものであることを心から願いつつ125周年を迎えたい。

水上安全講習会

7月1日(太山寺小学校の5、6年生29名)、8日(東町小学校の6年生98名)、15日(小寺小学校の5年生82名)を対象に、ウエルネスセンター学園都市のプールで「地域オープンプログラム」水上安全講習会を行いました。講習のテーマは「水辺で守る自分の



いのち・大切な人のいのち」です。着衣(長袖、長ズボン)の状態でも水、背浮きやジャンプポビング、またプールサイドから落水して呼吸を確保する体験をしました。学園都市のプールには水深2.5mのエリアがあり、それだけでも緊張を強いられる子もいて、経験したことのない「着衣のまま水に入った」感触に、「怖い」「気持ち悪い」「動きにくい」など、体験してこそその感想を聞くことが出来ました。なお、このプログラムは第10回ワイワイまつり(西神戸バザー)益金から支援を受けて開催しました。

世界YMCA大会

7月19日(24日)、香港で「第17回世界YMCA大会」が開催され、ユース約400名を含む1,200名が世界各地から集まりました。神戸Yからは小澤昌甲さん(西神戸YMCA保育園)、山崎往夫さん(神戸ポートワイズ)、橋崎頼子さん、森恭子さん(常議員)の4名が参加されました。世界YMCA同盟の新会長には北米YMCA同盟のケン・コロトン氏が、総理事にはヨハン・ウィルヘルム・エルトヴィック氏が選ばれたそうです。同時に世界YMCA退職主事会も開催され、山崎往夫さんがアジア地域担当副会長に就かれました。前任者は田中義宣さんで10年間務められました。



退職主事会に集った懐かしい面々

折りづるラン

西へ東へ 完走!!



神戸キリスト教青年会常議員、神戸ポートワイズメンズクラブの大野勉さんが、「折りづるラン」(広島へ、横浜へ)を完走されました。ワイズメンズクラブ西日本区大会(6月、広島)世界大会(8月、横浜)に向けて「平和も元氣も自分たちで作っていくもの」という思いを伝えようと、神戸から両市への「折りづるラン」を計画、震災記念日の1月17日にスタートしました。休日の度に前回のゴール地点まで移動、毎回約30kmを走り継ぎ、全37回950kmの行程を、広島には6月11日、横浜には8月5日、それぞれの大会開催日にゴールされました。走行する各地で、ワイズメンズクラ

ブを中心とする方々の歓迎と伴走・サポートがあったそうです。「自分にできることを何かしらやってみよう!」発言してみよう! 本場に自分から思うことを出し合う中で、本物のコミュニケーションになる」という大野さんのエネルギーに、周囲の人たちのエネルギーが誘い出され、それらが一つに合わさって互いの支えになり持続していく様子に感動しました。詳細は大野さんのホームページ <http://www.hi-netzag.net/genkidesu/orizurun.html> に綴られています。ランを通して感じられたこと、考えられたことのご報告をうかがう機会を望むのは記者だけではないでしょう。「次は何をしようかな?と考えるのが楽しい」になってきた」という大野さんの、次の「発言」と併せて期待したいと思えます。



宝くじ協会から集会用テントをいただきました

神戸YMCAの3つの保育園それぞれに、宝くじ協会から集会用テントが寄贈されました。保育園は保育だけでなく、園庭開放や赤ちゃんサロン(妊婦や新生児母の集える空間づくり)、わいわいまつりなどで地域の子育ちを支援しています。特に暑さが厳しいこの夏、屋外の活動で、組み立てが簡単なこのテントがとても役に立っています。



感謝

神戸YMCA創立125周年協賛金

- 宮田満雄・純子、本城智子、丹家元陽、株式会社渡辺電業社 代表取締役 渡邊幸二、伊地知文子、田中宏明、森本通朗、千草壽々子、有株式会社イースター式典社、福田宏子、大塚章信・敏子、株式会社ウイング、第一電子株式会社、志保田昭子、高井洋子、宮地京子、財団法人神戸市体育協会、野口善國、米田准三、雀部昌吾、大崎雲平、美崎教正、近江岸真美、山内一郎、橋本正晴、橋本和子、岡田佑一郎、加藤光信、信川須美子、城 純一、不二熱学サービス株式会社、渋谷寧伸、敬称略(順不同)

寄付金

- 武田寿子、清水泰人、江原伯陽、敬称略・順不同

ソナタ 奏鳴曲 No.44



総主事 水野雄二

「在日」という隣人

映画「ALWAYS 三丁目の夕日」に描かれた1958(昭和33)年頃、私の実家にはテレビがまだなくて、隣家の茂山さん宅でテレビを見せてもらってました。「ポパイ」や「ターザン」などの漫画をよく見ていたのを覚えています。汚れた服のままで上がりこんで平気でテレビを見せてもらっていた茂山さんは親しい隣人でした。

ところが、ある日、我が家の庭越しに茂山さんの庭から夫婦喧嘩が、突然大きな怒鳴り声が出て驚いたのですが、その言葉の意味がまったく分かりませんでした。日本語ではなかったからで、大きなショックを受けたのを覚えています。茂山さんは朝鮮半島からの在日コリアンの方だったのです。これが私の最初の国際体験であり、在日の方が身の回りに多くおられることを知った初めての出来事でした。

このように私たちは、多くの在日の方が地域におられて生活を共にしていることを知っています。しかし、在日の方々が背負われた歴史的な悲哀と痛み、また現在から未来に向けての差別的な課題については、まだよく理解されていないというのが実情でしょう。先日、姜尚中^{かんさんじゅん}さんの新著「母 オモニ」を感動をもって読みました。そこには朝鮮半島から渡ってこられた両親の苦勞、苦痛、信念、努力が描かれていて、また在日2世の姜さんの複雑な心理的遍歴も吐露されています。

日本はこの「在日」の大きな要因であった大戦の終結から65年の夏を迎えました。蝉のけたたましい鳴き声とうだるような暑さの中に遠い記憶が呼び覚まされます。そして、戦後の解放と分断、また冷戦の時代を経て、今なお、在日コリアンの方々の苦悩は続いています。特に神戸は1948(昭和23)年、戦後の苦悩の象徴的事件として記憶される「阪神教育闘争」の舞台でもあり、事件についての無知を恥じ入るばかりです。日本YMCA基本原則に謳われた「アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。」ということが、少しでも理想に近づき、多くの人と平和を分かち合える日の来ることを願う夏です。

次世代を担う神戸の若者元気発信プロジェクト

ユープラ親子でわくわくフェスティバル

「ゼロ歳からの知育・食育・体育」

ユースプラザKOBEBEASTでは9月25日、地域の子育て支援を目的にイベントを行います。午前は、絵本と読み聞かせ講座、英会話体験、体操、なかよしサロン(手遊びと紙芝居など)、午後は、坂元美子氏(神戸女子大学准教授)を講師に迎え、乳児・幼児の栄養と食事の講演会、およびコーラスライブステージ(午前の各プログラムは親子での参加が可。講演会は託児あり)。また午前からライブステージ開始まではスタンプリーパーや知育ブロック「LaQ」体験会を並行して行います。参加は無料ですが、事前予約が必要なプログラムもありますので、詳細はユースプラザKOBEBEAST(078-891-8222)へお問い合わせ下さい。

チャリティワインの会報告

7月9日に第21回チャリティワインを楽しむ会を開催しました。「初夏を楽しむサマーワインと料理」のテーマで、鯉など季節の食材を活かした料理とサマーワインを38名が楽しみました。

ポートピアホテルチーフソムリエ・岡本博文氏は今回、サッカーワールドカップ開催地の南アフリカ共和国にちなんで、南アフリカなど南半球のワインを中心にセレクト、スパークリングワインのコレクションの開催方、「上手なワインの注ぎ方」などの技も披露してくださいました。

チャリティオークションは、加茂実行委員の巧みな話術に大きな歓声と笑い声とともに完売しました。今回も、収益金はすべて「子ども奨学金」に捧げられます。

ハンドベル 世界大会報告

8月3日から7日まで第14回ハンドベル世界大会が大阪で開催されました。12の国と地域から約1,400名の演奏者・指導者が参加し、過去最大規模の大会となりました。阿部望さん(神戸YMCAベルクワイアー指揮者)が大会実行委員長を担われ、「神戸YMCAベルクワイアー」、「ディンドン・リッパーズ(三宮プランチ)」、「リッパーズ・エンジンズ(須磨プランチ)」のメンバーも参加しました。大会テーマ「Ecoeston Days」のもと、日野原重明氏(日本ハンドベル連盟理事長)の公開講座に始まり、ファイナルコンサートでは、約7,000人のハンドベルが奏でる響きが平和の輪を広げました。世界大会後に組まれたツアーでは、広島原爆ドーム前で原爆犠牲者に祈りをささげるコンサートもおこなわれました。なお、この世界大会の様子については次号で詳しく紹介させていただきます。

シリーズ「くさくさいのまど」

神戸YMCA国際プログラムでご協力いただいている、ポーポキ・ピース・プロジェクトのメンバーの一人、堀越健志さんにお話を伺いました。

2009年末、私はパレスチナ西岸地区を訪問した。西岸地区は第一次中東戦争以降イスラエルによる実質的な「占領」が続いている地域である。イスラエルとパレスチナの間では、入植地やパレスチナ難民など多くの懸案が山積しており、「和平」への道は険しい。その問題の一つに、いわゆる「分離壁」がある。この「壁」は西岸地区の土地、人々を分断し日々パレスチナ人を苦しめている。だからパレスチナ人にとって「壁」は、ユダヤ人に対する嫌悪感をさらに助長するものとなつていく。そして今では「壁」を挟んでユダヤ人とパレスチナ人の交流はほとんどないために、物理的だけでなく精神的にもユダヤ人とパレスチナ人は分断されてしまつている。

パレスチナ滞在最終日、パレスチナの2つのNGOを訪れ、イスラエル軍によるパレスチナ人に対する容赦ない弾圧について聞き、非暴力抵抗でさえ、非暴力抵抗を受け、死にまで出ている状況を知った。私は、非暴力抵抗でさえ弾圧される状況で、パレスチナに占領を覆す希望などあるのか?と、絶望的な気持ちになつた。その後、「壁」による悪影響を受けているビリン村を訪れ、非暴力抵抗を指導するイヤードさんと話をした。彼は「イスラエルは自分たちが占領している事実を世界に知られるのを恐れている。だから弾圧するんだ。非暴力抵抗の次にあるのは、世界の人々の連帯だ。国ではなく人々の連帯が必要だ」と述べていた。そして「ここは私たちの土地であり、私たちの生活の場である。私は子どもたちの未来のためなら、自分の血を流すことを厭わない」という言葉を強調していた。私はこれらの力強い言葉を聞いて、非暴力抵抗には人々の強い思いが込められていること、そして大きな力となる可能性があるという「希望」が生まれた。彼の言う世界の人々の連帯が成せるかどうかは私たちが次第である。私がパレスチナについてこのような感想を書いたりするのは小さいことかもしれない。しかし他の人に「伝える」ことは大事なことであり、現地に行った私の「関心」に変え、関心のある人には「現実」を伝えることで占領の終結を願う「思い」を広げていくことに貢献できればと思う。

ポーポキ・ピース・プロジェクトは平和な世界を志す有志の集まりとして2006年に発足した団体です。日本国内外で幅広く平和の想像と創造を促すためのワークショップ、セミナー、キャンプの開催等、年齢問わず、どなたでも参加していただける活動を行っています。(URL: http://popoki.cruisesejapan.com/)



ウエルネスセンター三宮	078(241)7202
YMCAホームヘルパーの事務所	078(241)7237
ランゲージセンター	078(241)7204
専門学校	078(241)7203
西宮YMCA	0798(35)5987
三田センター	079(559)0075
余島野外活動センター	0879(62)2241
国際・奉仕センター	078(241)7204



ウエルネスセンター学園都市	078(793)7401
西神戸YMCA	078(793)7402
西神南センター	078(993)1560
須磨YMCA	078(734)0183
YMCA保育園	078(794)3901
西宮YMCA保育園	0798(35)5992
西神戸YMCA保育園	078(792)1011
YMCAちとせ幼稚園	078(732)3542
西神戸YMCA幼稚園	078(997)7705

Photo Topics in Summer



6/15 ~ 17 高等学院修学旅行

観光、ダイビングやシュノーケルなどの体験を通して、ひとりひとりが周囲の仲間のことを意識しながら行動し、楽しみながら親睦を深める時間を過ごすことができました。



6/17 ~ 20 沖縄シュノーケリングツアー

渡嘉敷島にてシュノーケリングを楽しむことができました。透き通った海に色とりどりの魚たちとの幸せなひと時でした。



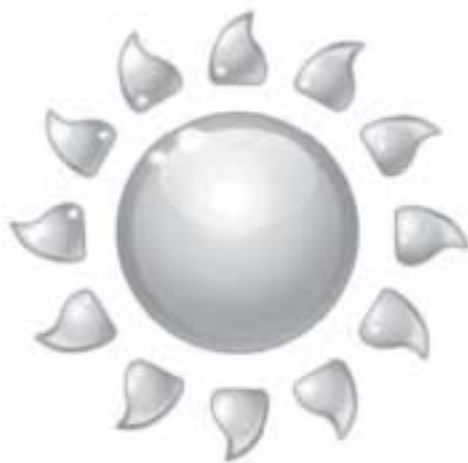
7/10 午餐会

カトリック六甲教会助任司祭の片柳弘史さんを講師に迎え「マザー・テレサは生きている～小さなことに愛を込めて」と題したお話を伺いました。片柳さんは「マザー・テレサ生誕百年記念写真展」を各地で開催されています。参加者は30名でした。



7/17 ~ 20 富士登山キャンプ

今年は、東京YMCAの父子キャンプとともに富士登山を楽しみました。快晴にめぐまれ、素晴らしい景色を見ながら登ることができました。また、頂上からは、新潟妙高、相模湾、東京湾までを見渡すことができました。



7/18 第60回関西地区YMCA合唱交歓会

今年は神戸YMCA混声合唱団「くさぶえ」の主管により、兵庫県立文化体育館で行われました。関西地区のYMCAに属する5つの合唱団に加え、今年は岡山YMCAのゴスペルクワイアが加わり、より盛大な会となりました。



7/23 ~ 26 余島インストラクションキャンプ

参加した子どもたちは、「カヌーの達人」「釣りの達人」「余島の達人」から一つを選び、プログラムに取り組みました。最後に、一人一人に「達人認定証」が手渡されました。



8/8 ~ 11 アクアティックキャンプ

イルカと一緒に泳いだりシュノーケルを楽しんだりしながら、自分とは違う「いのち」と触れ合うことができました。

●●●●●●●● 第23回 ●●●●●●●●

神戸YMCAチャリティーゴルフ大会

神戸YMCAの青少年育成活動（障がい児の体育活動、発達障がい児のサポートプログラム、野外活動など）で奉仕をしている600名を超える若いボランティアリーダーを育てるための「神戸YMCA青少年指導者養成基金」支援の催しです。

今回も楽しく実りある大会にしたいと思っておりますので、ご友人、ご親戚、ご家族の方などにも是非お声かけ頂き、多くの皆様にご参加くださるようお願いいたします。

日時：10月20日 8：35スタート
 場所：キングスロードゴルフクラブ
 会費：20,000円

個人消息

- ご結婚** おめでとうございます
8/28 西田 勉さん(西神戸ランチ)と納 君枝さん(西神戸YMCA保育園)
- ご出産** おめでとうございます
7/7 松尾 隆幸さん(垂水体育館)ご長女 安奈さん
7/28 木ノ本 由美さん(YMCA保育園職員)ご長女 紬葵(つむぎ)さん
7/28 三嶋 慶子さん(元YMCA保育園職員)ご長男 大久(たく)さん
- ご逝去** 謹んでお悔やみ申し上げます
7/3 藤井 正久 様(総会構成員、元評議員)
7/9 塩月 賢太郎 様(元日本YMCA同盟総主事、元JOC S総主事、元神戸YMCAスタッフ塩月伊作さんのご尊父)
- 7/28 中村 賢次郎さん(三宮ランチ職員)ご母堂様
- 退職** おつかれさまでした
6/30 関 博さん(カレッジ)
6/30 中島 星子さん(西宮ランチ講師)
8/31 栗田 康二さん(三宮ランチ職員)

【お詫び】7月号に掲載した日本YMCA同盟表彰に漏れがあり、追加表彰をいただきました。大変失礼致しました。お詫び申し上げます。
 <25年継続会員賞> 廣瀬一雄さん